

テーマ 「近現代史より見た日本の在り方」 講演 田母神 俊雄氏

ホスト：高槻東ロータリークラブ（会長 渡辺 一光）

日 時：2010年1月30日（土）

場 所：茨木市市民総合センター（クリエイトセンター）

参加クラブ：茨木RC、茨木東RC、茨木西RC、
千里RC、千里メイプルRC、摂津RC、
吹田RC、吹田江坂RC、吹田西RC、
高槻RC、高槻西RC、高槻東RC

登録者数：485名

出席者数：388名（来賓、RC家族含む）

I.M. 実行副委員長

齊藤 昇男
(高槻東RC)

今回のI.M.は日本の将来を見据え、“今一度本来の日本の良さ、素晴らしさを再認識することが肝要”との観点から、日頃日本人の素晴らしさをたたえ、その著書で多くの日本人が自虐的に感じている日本の歴史について、正しい歴史観で捉えるよう主張されている前航空幕僚長田母神俊雄氏を招聘し「近現代史から見た日本の在り方」と題し、存分にその持論を展開していただきました。満席に近い多数の参加者は、ときおり田母神氏のジョークで笑いを交えながらも終始緊張感を持って最後まで熱心に耳を傾けていました。

田母神氏は戦前から戦中および戦後における過去の歴史認識には史実に沿わないものが多くある

こと、また教育の重要性について、戦前の日本の教育や日本人の道徳観念は非常に高く優れたものであったこと、そして日本が真の独立国として自主的外交力を持たなければならないこと、そのためには国防力が不可分であること、などを多くの歴史的事例を挙げて説かれました。

その上で改めて『日本が正しい国家観や歴史認識をもって国の舵取をすることが最も肝要である』ということをや切々と訴えられました。

中でも教育勅語や戦前の道徳教育の下りでは、教育勅語は英語のみならず広くヨーロッパの言語に訳されて各国に持ち帰られ、100年後の今でも各国で道徳教育の規範として使われており、また



アメリカにも「ザ・ブック・オブ・バーチャーズ」という本があってその内容は正に教育勅語そのもので広く国民に読まれているということでした。今の日本の教育にこそその規範が必要ではないかと説かれました。

まさに田母神氏の「志は高く熱く燃える」という座右の銘の如く熱き思いが伝わってくる講演でありました。

続いて癒しのひととき、当クラブの劇団「はぐるま座」の公演が行われました。多数のロータリアンの前で披露するのは今回が初となるため、座員一同は仕事やI.Mの準備の合間を縫って一生懸命に稽古やリハーサルを重ね本番に臨みました。

演目は「口上」と「国定忠治<赤城山の段>」でした。赤城山の場面では名（迷？）演技にやんやの喝采で会場は大いに盛り上がりました。

閉会式では大谷Gの総括があり、最後に「手につないで」を合唱してお開きとなりました。

日程の都合上、すべて手作りの会場設営を余儀なくされ、大変苦勞しましたが、その甲斐あって多数のロータリアンに参加いただき、また大森G補佐の熱心なご指導並びに多くのPGのご支持を得て無事終了することができましたことを改めて感謝申し上げます。

